

宮川の風 第77号

平成31年2月22日（金）発行

宮川小学校校長室からのたより

先日、家庭教育学級の閉級式がありました。その中で、少しお時間をいただいております。以前作った資料をもとに、子育てについて話をするにしました。その資料とは、テレビCMのキャッチコピーを使った内容でした。

あるお菓子メーカー商品のキャッチコピーに「5回に1回は〇〇出ます」というコピーで、4回目までは俳優の山下智久さん（山P）ですが、5回目は同じく俳優の温水洋一さんが出るというCMがありました。これをもとに「5回に1回は子どもの言葉（会話）の裏側を探ってみよう」というお話をしました。大人もそうですが、子供も本音をなかなか話そうとはしないものです。特に、困ったことや悩み事などがある場合は、本当の気持ちを誰かに打ち明けるといことは難しいものです。親としては、何でも本当のことを言ってもらいたいのですが、なかなかそうはいきません。思春期になるとなおさら難しくなる場合が多いと思います。

そこで、「5回に1回は」子供の言葉の裏側にある本音を探ってみることが必要ではないかと思うのです。「学校は楽しい？」「楽しいよ」「お友だちとは仲良くしてる？」「仲いいよ」。そんな時、「果たして本当に楽しく学校生活を送っているのか？」「本当に友だちとは仲よくできているのか？」と探ってみることで、別にある本音を察知できるのかもしれませんが。

裏面の話をお読みください。

さっと流してしまいそうな文章ですが、「果たして？」という思いが、この子の本音を引き出すことになったのです。本音を打ち明けられたことで、この子はずいぶんと気持ちが楽になったことなのでしょう。子どもの心は正面からだけでは見えないものだと思うことも、必要なのだらうと思います。

20日（水）に学校評議員会がありました。地域の代表の方々とPTA会長さんからなるメンバーで、学校の運営等について幅広くご意見をいただきました。

その中で、宮川小の子供たちの「あいさつ」について、嬉しいお話をいただきました。次のような話でした。

「最近、地域の人たちにもあいさつができるようになってきていると感じています。先日も、地域の方に子供たちからあいさつをしていました。その方は、『（子どもたちのあいさつが）気持ちがいいですね』と言いながらバス停に向かって行かれました。」

同じように、その前日に行われました皇徳寺中学校区の校外生活指導連絡協議会でも、宮川小の子供たちのあいさつのよさが伝えられました。



ある日のできごとから

火曜日の朝は、全校音楽がありました。今回は、6年生の発表でした。リコーダーを中心とした合奏や合唱などで、15分間を素敵な時間にしてくれました。

この宮川の風でも以前ご紹介しました「北の国から」の主人公である「純」風のナレーションで始まりました。最近の6年生を見ていると、これまでの小学校生活を振り返りながら、小学校での残り少なくなった時間を大切に大切に過ごそうとしているように感じられます。そこには、楽しい思い出もあれば、悲しい思い出もあることでしょう。また、友だちや先生の存在にもいろんな場面で影響を受けてきたことと思います。それら全てがあって、今の自分があり、これからの道を切り開く力を蓄えられたのだと思います。

そんなことをみんなで共有し、これからの道を力を合わせて乗り越えていけるように、みんな手を繋いで歌い上げた歌「風になる」は、心に染み込んでいくような歌声でした。

（文責：鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）